

2025 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部	教授	原京二
最終学歴	学 位	専門分野
中央大学経済学部卒	経済学士	メディア論、ブランド論、地域情報論、放送政策論

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

学生が社会の多様な価値観を学び自らの学びと人生を肯定できるように伴走する

【目標】

- ①社会の中で良好な信頼関係を構築できる学生の育成
- ②聴く力と問いを立てる力のある学生の育成
- ③フィールドワーク等を通して主体的に行動できる学生の育成

【方針】

学生との日常的なコミュニケーションを大切にしてフィールドワークや学外の専門家との接点を増やす

【計画（方法）】

- ①グループワークを活用した学生と双方向な授業運営
- ②実務家の経験を活かし授業内で最新の事例を紹介する
- ③ゲスト講師を招いた授業で多様な価値観を学生に提供する

○担当科目（前期・後期）

（前期）

総合演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、ブランド構築論

（後期）

総合演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、コミュニケーション論、リーダーシップ論、プロジェクト基礎

○教育方法の実践

積極的な映像資料とグループワークの活用、総合演習はプロジェクト型として地元企業と連携、また科目授業、演習ともに外部講師を招いて実社会における多様な価値観を学ぶ機会を提供

○作成した教科書・教材

特になし

○自己評価

外部講師を招いての授業は大変好評であり改めて学生の学外との接点の重要性を痛感、また、授業における学生の修業意欲の2極化の対応には引き続き検討を要する

○研究課題

地域メディアによる災害時の情報発信のあり方についての研究

○目標・計画

【目標】

情報通信学会等への投稿及び研究課題に関連したパネルディスカッション等への参加

【計画】

南海トラフ地震が近づく中、地域メディアが地元で必要とされる情報を発信するにあたり、低軌道衛星の活用が期待される。そのため低軌道衛星が地域メディアに与えるインパクトについての研究を進める

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・一歩先へススメ（プロジェクト責任者としての共著 丸善出版 2020年7月）

（学術論文）

- ・放送局のブランド戦略に関する考察（日本広報学会「広報研究」第24号 2020年3月）
- ・地域の情報発信力を高めるテレビ放送ネットワークの再編について
（情報通信学会学会誌「Vol 40」査読付 2022年6月）

（学会発表）

- ・なし

（特許）

- ・なし

（その他）

- ・日本ケーブルテレビフェスタ 2024にて研究内容の講演「地域メディアの役割」（2024年10月）
- ・情報通信学会国際コミュニケーションフォーラム参加（2024年6月）
「能登半島地震における現時点での情報流通を検討するべく、「能登半島地震 震災対応で放送・通信は進化しているか」について議論し、大規模震災時におけるインフラ、プラットフォーム、端末、コンテンツの在り方等についてのディスカッションを行った。さらに、検討をふまえて政策的な提言を行うことを視野に議論を深めた。
- ・能登半島地震における低軌道衛星（スターリンク衛星）の役割と情報について衛星アンテナを提供したKDDIへのヒアリングを実施（2024年9月）
「能登半島地震ではKDDIがスターリンク衛星アンテナを初めて災害地域に提供し、通信の確保をした。通信が確保されたことで、どのような災害情報がどのように発信されたのかについてヒアリングを実施し貴重なデータ等を得た」
- ・令和7年度から経済産業省国際標準化委託事業で実施される宇宙擾乱情報サービス国際標準委員会が2025年9月に開催され委員として出席した。この国際標準化委員会は、国際的に大きく懸念されマスコミ等でも取り上げられている太陽フレア等の影響など宇宙天気の予想と社会的意影響に関するルール作りをミッションとしている。実際のテレビ報道等における災害報道の研究を元にこの分野の専門家として今後も委員会に参加予定である

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・KDDI財団への研究助成に応募したが未通過

○所属学会

- ・情報通信学会、社会情報学会、広報学会

○自己評価

新しい通信プラットフォームである HAPS（高高度プラットフォーム）のサービス展開が始まるために KDDI、NTT ドコモ、ソフトバンク 3 社と個別の打ち合わせができたことは有意義であったが、各社ともに新しいサービスゆえに非公表の情報が多く論文としてまとめるまでには至らなかった。低軌道衛星サービス以上に、災害時の新しい情報発信のあり方を変える大きな通信プラットフォームであり引き続き研究を進める

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

広報委員会の委員長として今年度の重点事項及び今後の大学広報とブランディングのあり方についての提言を行う

【計画】

他大学の広報戦略の情報収集及び学外の専門家を活用したブランディングの再構築

○学内委員等

広報委員会として大規模なブランド調査を学生・教職員・東邦高校教員に実施、現状と今後の課題について次期中期経営計画に反映できるように活動した。またステークホルダーに対する教職員の情報発信を強化する施策を検討し実施した

○自己評価

広報委員会としてはこれまで手つかずであった大学のブランドの現状認識と課題を明確にできた点については大きな進展であると考えている

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

産学連携により大学の地域貢献を図ると共に地域と学生を繋いだ実践的な授業を展開する

【計画】

演習にて、学生の提案にて地元企業が抱える社会課題の解決方法を探る

○学会活動等

災害時におけるメディアの役割について知見を深めるために地元等で積極的にシンポジウム等に参加した

○地域連携・社会貢献等

総合演習において地元企業のブランディングをテーマにグループワークを続け、企業の訪問と 2 回のプレゼンテーションを実施した。プロジェクト型の授業として演習を活用することは学生の修業意欲を高めることであると実感した。また昨年度の東邦プロジェクトの延長として地元の FM ラジオ局と連携して学生が番組内容を企画してパーソナリティを務めるラジオ番組を実際に放送した。担当した学生たちは就活を前に大きな学びを得たと感じている

○自己評価

元企業との連携、プロジェクト型授業等に活用については一定の成果を得たと考えるが、今後の展開については、ひと・もの・かねのリソースが課題になると感じている

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

家資格キャリアコンサルタントを有しているので、講習会等でより専門的かつ実践的な知識を深め学生のキャリア支援に役立たせる

VI 総括

全てにおいて可能な範囲で達成できたことが多いと感じるが、事を運ぶにあたり組織的な展開や行動に課題も感じた。また学生対応に多大な労力を割く現実もあり、全てにおいてバランスが大切であると痛感した

以 上